

奏

SOU

Vol.51 Spring 2019



スペシャル対談：

葵トリオ(2018年ミュンヘンコンクール優勝)

×

磯村和英

ヴィオリスト(元東京クワルテットメンバー・
1970年ミュンヘンコンクール優勝メンバー)

音楽の学び舎：沖縄県立芸術大学

谷本裕

音楽文化の源：

庄原市民会館

室内楽コンクールとベートーヴェン

渡辺和



葵トリオ © Daniel Delang



アーティスト スペシャル対談

磯村和英

〈ヴィオラ、元東京クワルテット〉
(一九七〇年ミュンヘン国際音楽コンクール優勝メンバー)

葵トリオ

〈ピアノ三重奏、秋元孝介(ピアノ)、小川響子(ヴァイオリン)、伊東裕(チェロ)〉
(二〇一八年ミュンヘン国際音楽コンクール優勝)

二〇一八年九月に日本の音楽界に明るいニュースが飛び込んだ。ARD音楽コンクール(通称ミュンヘン国際音楽コンクール)のピアノ三重奏部門で、日本の葵トリオが堂々の一位を受賞した。難関として知られる同コンクールは一位を出さないことでも有名で、ピアノ三重奏部門は十一回目の開催で葵トリオは五団体目の一位受賞団体。日本人団体がピアノ三重奏で一位を受賞したのは初めてであり、室内楽のジャンルでは一九七〇年の東京クワルテット以来四十八年ぶりとなった。

今回のインタビューでは、東京クワルテット(以降Q)で不動のヴィオラとして四十四年間世界中で活躍を続けてきた磯村和英が、これから世界へ羽ばたく葵トリオにその経験と叡智を語った。

家に泊まって、合宿の様な共同生活。その期間がコンクールに良い影響を与えたのではないかと思っています。

昨年のコンクールで葵トリオが優勝されて半年経ちましたが、改めて振り返って、コンクールはどういう日々でしたか？

秋元 やっぱ、コンクールの期間中は、弾いたらすぐに次のラウンドの準備というのが続いて、精神的にかなり大変でした。他のソロのコンクールでもそうですが、二次から本選に向けて体力的にも精神的にしんどくなってくる。

小川 トリオとしては初めてのコンクールで、実はコンクールの一週間くらい前からミュンヘンに入って毎日練習をしていました。同じ



伊東さん

とても大変だったのですが、トリオなら三人いるというのが助かる。一人ではない有り難みという

か、孤独ではない安心感がありましたね。

磯村 先生は東京Qとしてコンクールを受けられたのは一九七〇年と四十九年前になりますけど、当時の印象的な思い出などありますか？

磯村 そうですね、僕たちは四人共とても緊張したのを覚えています。印象的だったのは、今とは時代が違って、当時はコンクールで入賞したソ連の人たちが亡命することになっていたので、ソ連の団体が三位を受賞されたのです



左より磯村和英さん、秋元孝介さん、小川響子さん、伊東裕さん

が、ミュンヘンにも国から監視のような人が来ていたのを覚えてい

す。レセプションでも、他の受賞者と気楽に歓談するのも難しいのでしょうね。それと、コンクールでは他の団体の本番の演奏が、嫌でも聞こえてきちゃうでしょ？葵トリオはそういう時はどうしてた？

秋元 うーん、練習の音は時々聞こえるですけど、期間中は朝から晩まで一日中練習をしていて、他の団体の本番の演奏を聴くことがほぼ無かったです。



磯村さん

磯村 僕たちも練習に必死だったけど、何組か聞こえたのを覚えています。参加団体は色々な国から来ているのだけど、当時は毎に演奏のスタイルが本当に違って面白かった。ソ連だけじゃなくて、ポーランドやイタリアやフランスや、もちろんドイツからも。僕は、音楽表現では国籍より本人の音楽性や人間性の違いの方が大きいと思うんですけど、でも当時は本当に国毎に違ってましたね。最近は世界が狭くなると

言われているけど、インターネッ

トで世界的に評価されている練習方法がすぐ分かる。その方法で皆が練習すると、テクニックだけじゃなくて、音楽の表現の仕方まで似てくる。現代では色々な演奏家が世界で活躍していますが、昔に比べて違いが少ないように感じますね。僕たちがコンクールを受けた頃は、もつと様々な演奏が多かったように思います。楽譜についても、昔はベータースが何かくらいしか無かったけど、その楽譜の裏にある音楽を読むとして

いました。今はベレンライターやヘンレが、作曲家の原譜を忠実に研究した楽譜が手に入る。ある意味では正解の情報が簡単に手に入るのですね。賢い演奏家の方々は、いつの時代でも楽譜に対して良い解釈したり、自分の経験を活かしながらやっているだろうけど、今と昔ではアプローチも変わった気がします。

ありがとうございます。とても興味深い話ですね。葵トリオは優勝は大きな節目になったと思いますが、コンクールを受ける前と後では、自身の心境や生活に何か変化はありましたか？

秋元 そうですね、作り上げてきたものがヨーロッパのコンクールで認められた。それは自分たちがやってきたことが間違っていなかつた

と、大きな自信になったと思います。コンクール後は、本番に臨む時に自信や確信のような強い意志を持って弾けるようになりました。演奏するときの意識のあり方が変わりましたね。

小川 コンクールに向けて綿密に練習をしたことで、三人の音やスタイル、アンサンブルが、より信頼できる関係性になったかな。それがコンクールを受けて二番良かったかなと思います。もちろん結果も嬉しいけど、二番良かったと思うのは結末が固まったことだと思います。

秋元 そうだね、長い時間を一緒に過ごして、随分と時間を費やしたから。



秋元さん

小川 そう。あとコンクールでは近現代の作品が四曲もあった。実はそういう曲は好きじゃなくて避けてきた部分があったけど、コ

ンクールだと避けるわけにいか

なくてでも取り組んでいるうちに「結構面白んだ」と思うようになって。それも良かったかなと。コンクールを受ける前は、三人共



小川さん

の将来などはあまり意識していませんでした。去年の三月に京都の青山音楽記念館で自主コンサートを開いたのですが、そのコンサートが青山音楽賞を頂いたんです。先日、その授賞式で演奏させていだいて、去年のコンサートも聴いていた方から「二年前とは全然違う」と言われたんですよ。「二年前も悪く無かったけど、やっぱり今日の演奏は見違えるようだ。」と。コンクール前と今とでは、嬉しいことに客観的にも違って聴こえ

感じですね。

取材協力：田口弘/杉山美和

PROFILE

敬称略

【磯村 和英】(ヴィオラ)

桐朋学園とジュリアード音楽院で学ぶ。1969年東京クワルテットを結成。ミュンヘン国際コンクール弦楽四重奏部門で第1位を受賞。創設から44年間にわたりニューヨークを拠点に世界各地で演奏活動が続けた。東京クワルテットでの録音における幅広いレパートリーで数多くの受賞を重ね、グラミー賞には7回ノミネートされている。また個人としてもヴィオラ・ソロとソナタのCDをリリースする。2013年外務大臣表彰、14年アメリカ・ヴィオラ協会よりキャリア・アチーブメント賞を授かる。現在は桐朋学園とマンハッタン音楽院で室内楽とヴィオラの指導を行う。サントリーホール室内楽アカデミー・ファカルティ。

【葵トリオ】(ピアノ:秋元孝介 ヴァイオリン:小川響子 チェロ:伊東裕)

2018年ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ三重奏部門で、日本人団体として初めて第1位受賞。東京藝術大学、サントリーホール室内楽アカデミー第3期生として出会い、2016年に結成。「葵/AOI」は3人の頭文字から取り、花言葉で「大望、豊かな実り」を意味する。伊藤恵、中木健二、花田和加子、原田幸一郎、堀正文、松原勝也、山崎伸子に師事。コンクール優勝記念の凱旋公演をサントリーホールブルーローズで開催して好評を博す。青山音楽賞パロックザール賞、新日鉄住金音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。現在はドイツを拠点にミュンヘン音楽大学のD. モメルツに師事し、国内外で活動している。

るのですね。それにコンクールで二位を頂いたことで、自分たちの将来の活動に、良い意味で責任を持つようになったとも思います。

葵トリオ結成前でしたが、磯村先生もサントリー室内楽アカデミーで三人の指導をされていたんですよね。磯村先生に
とっては、この三人はどのような生徒でしたか？

磯村 そうですね、特に小川さんは、親友であり長年の仕事仲間の原田幸二郎君に小さい頃から師事していたので、彼からよく聞いていたんですよ。サントリーホール室内楽アカデミーは四年間いましたね。最初は弦楽重奏で、次は（葵とは別の）トリオで。本当に室内楽を通して、小川さんとの付き合いは長いですよ。伊東君は、アカデミーでも教えたけど、個人的にも弦楽四重奏で指導させてもらったり。秋元君もアカデミーの時は別のトリオだったよね、僕はヴィオラだからトリオの専門では無いけど、色々と聴かせていただきました。三人とも素晴らしい音楽家ですよ。コンクール本選ではシューベルトの大変なピアノ三重奏第2番を演奏しま

したね。第1番の方は割とポピュラーですが、第2番はあまりにも大変な曲。音楽的にも深いし、ちょっと捉えづらいこともある。だからあの曲で二位を取ったというのが本当に素晴らしいと思います。優勝の連絡をもらった時には、血が騒ぎました。本当におめでとうございます。こういう機会だから葵トリオにお伝えしたいことがあって、クアルテットに比べるとトリオって曲数は多くは無いかもしれません。でも本当に素晴らしいレパートリーも沢山ある。皆は本当に室内楽が好きだから、この機会をスタート地点として、トリオを主に活動していつて欲しいな。もちろんトリオを大事にしながらも、他の音楽もどんどんやっても良いと思う。ピアノクアルテットや、時々ソナタをやってみるとか。他の活動からとても栄養をもらえるから、トリオの活動に活かして継続していつてほしいです。

継続の話になりましたが、東京Qは四十四年続けられました。継続のために大切なことはあるのでしょうか？

磯村 僕らが長く継続できたの

ビュース盤のハイドンの作品76.1とブラームスの第2番が好評をいただいて、ドイツグラムフォンと専属契約となった。それで次に録音したのもやっぱりハイドン。だから、レパートリーにはレコード会社も関係していました。

葵トリオでは、取り組みたいレパートリーなどはあるのですか？

秋元 やっぱり来年はベートーヴェンのメモリアルなので、まだ取り組んでいない作品はやりたいですね。あとは、ヨーロッパの聴衆って、日本に比べて近現代作品への抵抗が少ないように思います。演奏頻度の低い近現代の作品を、我々が常設団体として国内外で紹介するのは意義があると思います。東京Qはコンサートのプログラムを決めるにあたって、演奏する国や地方などを意識したことはありますか？

磯村 出来るだけ意識しないようにしましたけど…やっぱり我々も人間だから、してしまうこともあるありますよね（笑）。面白い思い出があって、イタリアに演奏旅行に行った時に「イタリアで演奏するのだから、ちょっとイタリ

は、最初からどうしても弦楽四重奏をやりたいというメンバーだったのはあると思います。最初から二生を懸けて取り組む熱意があった。もう一つは、メンバーとは若い頃から付き合いが長く、喧嘩もあつたけどお互いの信頼感がありま



した。その信頼感というのは一番大事だと思う。信頼感にも色々あって、一つは人間としての信頼感。それから弦楽四重奏をやりたいという情熱が、全員同じレベルということ。四人で弦楽四重奏を同じように大事にしていって、という信頼感もすごく大事な。人間ってそれぞれ違うじゃないですか、性格もバックグラウンドも違うから、他のメンバーと意見が食い違うこともある。そういう時、

ア人が喜びそうなアンコールにしようか」という話になって、プッチーニの「菊」という作品を用意しました。悲しい雰囲気ですが、とても甘美なメロディーの曲なんです。そうしたら、コンサートの後にお客様から「お願いだから、あなた達のような立派なクアルテットが、あのような曲は弾かないで」と。イタリア人って、オペラのように甘美な曲が好きなイメージもあるけど、音楽や芸術に親しみや尊敬を持っている人たちは、ベートーヴェンの後期のクアルテットなどを愛好する方もいるみたいなんです。

今、旅の話が出てきましたけど、葵トリオも徐々に演奏旅行が増えていきますね。旅ならではの大変さなどはありますか？

小川 やっぱり時差でしょうか。この半年、私以外の二人は東京に住んでいたの、トリオの活動のために私が帰国。その度に時差は大変です。それに、コンクール後に公演が決まったのに、練習時間を確保するのに困難だったのが、この半年間でした。なので今後は、三人でドイツをベースにするのは、とても意味があることです。

瞬間的には不満に感じても、根本的な部分で「相手が自分と同じ活動をしている」という信頼があれば、乗り越えられると思うんです。色々な意味でポイントは信頼感だと思いますね。良いパートナーシップで仕事を継続する。

トリオは継続のための第二歩として、まず二年間はドイツをベースにして勉強や演奏活動を始めます。トリオとして、当面の目標などがありますか？

伊東 先程、弦楽四重奏に比べて曲数は多くないとありました。ですが、自分たちのレパートリーはまだまだ少ないので、まずはレパートリーの拡充が当面の目標ですね。

磯村 それは良く分かります。コンクールを目指すとそのレパートリーは一気に習得しますが、他にも重要だと思うものは、しっかりと身に付けていったほうが良いですね。

東京Qの場合は、初期の二十代半ばから三十代にかけて、レパートリーはどのように作っていったのですか？早い内から、バルトーク全曲などに取り組んで

伊東 チェロの場合、楽器が大きいので、移動が多いと身体に負担がかかりますね。

磯村 飛行機代もかかるしね。

伊東 そうなんです。

東京Qは演奏旅行の連続でしたが、どのように対処されていましたか？

磯村 僕は飛行機の中でうまく寝るように努めました。人によつては、時差を調整するために機内で寝ない場合もあるかもしれない。それで調整できる人は良いけど、でも寝られる時に寝るのも解決方法の一つかなと思っています。

伊東 これからドイツの大学で学び始めますが、卒業すれば先生のもとでの勉強は終わってしまいます。その後は、自分たちだけでどのように練習していくものなのでしょうか？

磯村 そうですね、トリオだったら自分以外の二人が先生、クアルテットなら三人いると考えましょう。弾いてる本人より、側で聴いている人のほうが色々と解るんですよ。技術的なことだけでなく、音楽的な表現でも。お互いの耳やアイデアを大事にして、大い



て真面目に弾く人もいますが、幸一郎君が弾くと自由奔放なんです。でも、彼の場合はそれが納得させられる。ハイドンの本質的な様式美のようなものを、感覚的に十分にわかっている自由に飛んだんでしょうね。録音デ

にアドバイスを貰うと良いですよ。それと、先生との勉強が終った後でも、時々には室内楽の経験のある人に聴いてもらうのは大切ですよ。直してもらうだけでなく、褒めてもらうだけでも自信につながるし。あとは聴衆との関わり合いも大事。自分たちの演奏を、聴衆がどのように聴いているのか敏感に感じられたら、それが本当にレッスンになる。良い聴衆は良い演奏家を育て、そして良い演奏家は良い聴衆を育てます。それは綺麗事ではなく、半世紀近く演奏活動が続けてきて、実感として本当に思っています。



秋元 東京Qの場合、いつ頃四人だけでやるようになったのですか？

磯村 コンクールの後からほとんど自分たちだけでしたね。それと、忙しくなると他の人のコンサートを聴く時間が無くなるじゃないですか。でも多少無理し

ても、時々是他の人の生の演奏を聴くのも大切ですね。

小川 ツアーなどでは何度も同じ曲を弾くことも多いと思いますが、公演の度にしっかりと練習をしていたのですか？

磯村 僕らのツアーは移動と本番の連続だったので、公演毎の練習というより、まとめてレパトリーを作る期間を設けていました。

小川 一年の中で、ということですね。

磯村 そう、夏に音楽祭に出なくて良い期間に、シーズンのレパトリーをまとめて練習する。だから夏をどのように使うかというのはいつも大変でした。レパトリー作りと、音楽祭への出演、そして家族との時間。レパトリーといえば、いつも同じ曲を演奏すると、自分たちも飽きる心配があるでしょ。僕たちも最初の頃は、三つか四つのプログラムを、シーズン弾き続けていましたが、ある頃からシーズンの前半と後半ではとんどの曲を変えていました。後半のレパトリーはクリスマス休みから二月くらいで改めて準備していましたね。トリオでも、まとめてレパトリーを用意する時

間を作るのは良いと思いますよ。

秋元 そのようなリハーサルって、ちゃんと意識して日程を確保しないと難しいですよ。公演依頼を受けたのは良いけど、「じゃあ練習をいつするんだ？」という話になってしまて。僕たちは、いつも直前に慌ててしまっています…。

小川 時間というのは、作らないとね…。

秋元 それがやっぱり悩みだよな。

磯村 それは計画性が重要になってきますね。僕も割と計画をたてるのは苦手だったけど(笑)

小川 計画をたてる時や、団体の方針を決める時など、東京Qはリーダーがまとめていたのですか？それとも役割が決まっていたりしたのですか？

磯村 うん、それぞれで役割は決まっていました。でも意思決定でリーダーは居なかったかな。予定を立てる時も曲の解釈でも、民主的に四人が対等な立場で意見を出し合って決めていた。まあ、ハイドンなどの古典物では、第二ヴァイオリンに重要な部分が多いので、第二ヴァイオリンが自由に弾けるような流れが出来ていたかも。でもそれ以外では、充実した活動

をするために四人が遠慮しない

で意見を出し合っていました。葵トリオは本当に仲が良く、信頼しあっているよね。でも仲の良さが、相手への甘やかしにならないように気をつけてね。余計な喧嘩は必要ないけど、お決まりのディスカッションではなく、時にはアーギュメント(反論も含めた強い発言)も避けなくて、全員が思い切り自己主張をする事が大事です。思い返すと僕たちも、良い状態でコンサートが出来たのは、議論を恐れなかった時だと思っています。

秋元 以前も別の方から「議論したほうが良い」と指摘されたことがあったね。我々のタイプとして、話し合いでは踏み込みすぎない感じもあるのかな。

磯村 リーダー無しで良い共同作業をするのは、大変なことですよ。だから、くどいようだけど、信頼。お互いを信頼するというのが鍵だと思います。

伊東 今日、色々とお話を伺って思ったのですが、コンクールで二位を頂いたという結果は同じでも、その後は全然違う印象ですね。本番数も桁違いに少ない。僕たちが断っているのは無く、依頼そのものも少ない感じがします。東

と知ってもらえるように活動していきたいと感じています。

葵トリオ だけでなく、**ピアノ・トリオ**というジャンルの認知拡大ですね。

伊東 そう、ジャンルとして、もっとポピュラーにしていきたいですね。

磯村 なるほど、そうですね。そのため、これからも自分たちの良いところを思い切りアピールして、世界中で良いコンサートをやってください。

皆さま、本日は本当にありがとうございました。

ありがとうございます。色々**磯村**先生から有り難い言葉を沢山頂きましたが、最後に**葵トリオ**の将来の展望をお願いします。

秋元 トリオは常設団体が少ない中で、ソリストが集まって即座に出来るイメージもあります。でもそうじゃなくて、常にこの三人で活動しているからこそ室内楽的な音楽を届けたい。そういうクオリティを保ちながら、我々は活動する必要があると思っています。

磯村 とても核心をついてますね！それと同時に、トリオは楽器の特性をとっても活かして作曲さ

出演公演情報

磯村和英(ヴィオラ)

サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン
プレシャス 1 pm
Vol.1 クラリネット五重奏の深遠

2019年6月5日(水) 13:00~14:00(12:30開場)
会 場 サントリーホール ブルーローズ(小ホール)
演奏曲目 ブラームス:
クラリネット五重奏曲 口短調 作品115 第2楽章、他
問い合わせ サントリーホール 0570-55-0017

サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン
フィナーレ 2019

2019年6月16日(日) 14:00開演(13:30開場)
会 場 サントリーホール ブルーローズ(小ホール)
演奏曲目 エルガー:『序奏とアレグロ』作品47、他
問い合わせ サントリーホール 0570-55-0017

葵トリオ

音楽のおくりもの 葵トリオ リサイタル

2019年7月5日(金) 18:30
会 場 盛岡市民文化ホール
演奏曲目 シューマン:
ピアノ三重奏曲第3番 ト短調 作品110、他
問い合わせ 盛岡アカンサスの会 080-5225-1165

葵トリオ ピアノ三重奏の調べ

2019年7月7日(日) 14:00
会 場 DMG MORIやまと郡山城ホール(奈良)
演奏曲目 ベートーヴェン:
ピアノ三重奏曲第7番 変ロ長調 作品97「大公」、他
問い合わせ 奈良友の会 0742-43-7787

葵トリオ コンサート

2019年8月9日(金) 18:45
会 場 宗次ホール(名古屋)
演奏曲目 メンデルスゾーン:
ピアノ三重奏曲第2番 八短調 作品66、他
問い合わせ 宗次ホールチケットセンター 052-265-1718

音楽の学び舎

沖縄県立芸術大学

二つの古典——「琉球文化」と「クラシック」——と共に



沖縄県立芸術大学の外観（音楽棟）。奥に首里城が見える

沖縄の空の玄関・那覇空港から車で十五分。観光地として知られる首里城の北側に、沖縄県立芸術大学音楽学部キャンパスは隣接し、立つ。この土地は元々、東アジアと東南アジアを結ぶ通商国家として栄えた琉球王国の工芸所「貝摺奉行所（かいずりぶぎようしよ）」の跡

地だ。研究室の窓からは、一九四五年の沖縄戦でいったん焼失、本土復帰二十周年の一九九二年に復元された首里城の王宮や城壁が間近に望める。かつての王統の墳墓で世界遺産に指定されている玉陵（たまうどうん）、守礼門、王族土族が帰依した禅宗の旧円覚寺跡など、いにしへの歴史を伝える名勝・旧跡に囲まれている。古来、文化をはぐくんだ拠点で、地域の人々にとつての心の拠り所でもあり、世界各地の観光客をも引き寄せるスポットで日常的に学び、研究できる芸術大学・音楽大学はそう多くないだろう。音楽大学、または芸術大学の音楽学部といえば、ピアノやヴァイオリン、クラリネットやホルン

など西洋芸術音楽（クラシック）の楽器、あるいは声楽や作曲を志す学生をまず、思い浮かべるのではなかろうか。沖縄県立芸術大学にもむろん、これらを学ぶ学生や指導教員が居り、彼らが在籍する「表現専攻」がある。一方で、本学においてそれと同等の存在感を放つ、もう一つの専攻がある。「琉球芸能専攻」である。

府が朝貢した中国からの使節（冊封使）に披露していた組踊（くみおどり）（*）と呼ばれる歌舞劇や、琉球舞踊などが典型的なそれだ。

一八七九年、琉球王国は日本政府の力で廃され、「沖縄県」として日本の版図に組み入れられた。王府に雇われていた演者たちは失業、これら芸能は衰退の危機にさらされる



琉球芸能専攻の学生を交えた、舞台制作演習のアウトリーチ活動

が、市井で命脈を保った。沖縄戦後の米軍支配を経て一九七二年、沖縄が本土復帰したのに合わせ、組踊は国の重要無形文化財に指定される。二〇〇四年には組踊

部三十年の節目だ。沖縄は近年は観光状況にあるとはいえ戦後、ほぼ貫して経済的に苦しい状況にあった。芸術大学の創設構想が明らか



学内でのレッスン風景

は「沖縄のアイデンティティ」を明確にしようとしたのではなかったか、と筆者は考える。日本文化の中でも特に個性的な沖縄文化の伝統の源流を探り、その継承と創造を担う人材を育成していくこと。当時も今も、また今後も、沖縄県立芸大の永い課題であろう。

知事（一九二二〇二）には、芸術大学開設に特別な思いがあり、国を含む関係者を動かしていったといわれる。

音楽学部開設に合わせ着任、この三月に退官した金城厚教授（琉球音楽論）によれば、西銘知事は「ウチナンチュ（沖縄の人々）が何者であるかを明確にし、彼らが生きていく上で役立つ哲学や美学を持たせたいと考えていた」という。東アジアと東南アジアを結ぶ太平洋文化圏の中心に在って、琉球の芸能や芸術は歴史的にいかに形づくられてき、また未来に向けていかに展開していくべきか。県がリードする大学として、それらを教育研究の中で、西銘知事

琉球芸能の振興には普遍的な視野が欠かせない、との考えから、沖縄県立芸大の建学の理念として「沖縄文化が造り上げてきた個性の美」と、「人類普遍の美」の追究とが並び掲げられた。音楽学部ではこんにち、それは端的には「琉球芸能専攻」と「表現専攻」として位置づけられている。つまり音楽学部の創設に際して「琉球芸能」の教育・研究がまず構想され、その「鏡」としてクラシックに関わる教育・研究が位置づけられたのである。このことは、本土の他の音楽大学・芸術大学とは異なる特性として挙げられるだろう。こうした古典的な芸術芸能の表現に直接関わる二つの専攻に加



管打楽コースの室内楽公演風景

え、筆者が在籍する「音楽文化専攻」が相まって、他にはない豊かな個性を形づくっている。

音楽文化専攻は、西洋日本・アジア太平洋の古典から現代に至る多様な音楽文化の教育・研究に携わる。音楽の構造に関する理論教育・研究や音楽に関わる社会的研究を行う「音楽学コース」と、アートマネジメントや文化政策に関する理論と実践を教育・研究する「沖縄文化コース」から成る。筆者は二〇一六年、この沖縄文化コースの新設に合わせ着任した。

筆者は幼年期からクラシックに親しみ、北海道の新聞社でクラシック音楽の担当記者を務めた。関西にＵターンした後も、

大阪のホールで主にクラシックの室内楽公演をはじめとする事業の企画制作を手掛けた。研究テーマも主にクラシックの事業組織の経営に取り組むなど「クラシック畑」で仕事をしてきたが、ここ沖縄における琉球芸能との出会いで日々、視野を啓かれる思いでいる。

例えば、学生が市中の劇場で有料公演の企画制作を実践する「舞台制作演習」。この授業は、沖縄県立芸大における、初のマネジメント演習として二〇一八年度に開講された。履修生は、沖縄文化コースを軸とする音楽文化専攻の学生に加え表現専攻、琉球芸能専攻の学生の混成。企画に際しての最初の課題は、彼らが学ぶ琉球古典音楽とクラシック、二つのジャンルを舞台上でどう位置づけるかにあった。音階も拍節感も、音色も異なる音楽を個別に奏でるのか、対置するのか、並置するのか、それとも「融合」を目指すのか。学生たちは議論と思考を重ねた。自作台本と二つの音楽ジャンルにまたがる音楽作品の作・編曲を試み、さらには美術工芸学

（*）組踊
琉球王国の王府が、中国皇帝の使者を歓待する儀式で披露した。台詞と音楽、所作、舞踊で構成される。王府の役人である踊奉行（おどりぶぎよう）の玉城朝薫（たまぐすく・ちようくん 1684～1734）の創作により1719年、初演され、今年は300年の節目。彼は琉球の芸能を基に、江戸など日本への旅を通じて能・狂言や歌舞伎を学び、さらには中国の戯曲も参考に創作を重ねた。当時の演者・音楽家はすべて王府の士族とその子で、すべて男性。

沖縄県立芸術大学 首里当蔵キャンパス
〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地
電話098-882-5000 / ファクス098-882-5033
http://www.okigei.ac.jp/

沖縄県立芸術大学 音楽学部音楽文化専攻教授
谷本 裕



【谷本 裕 たにもと ゆたか】プロフィール
京都市生まれ。一九八五年、立命館大学法学部を卒業し、北海道新聞社に入社。一九九九年依願退職。二〇〇〇年、京都市立芸術大学音楽研究科に入学すると同時に大塚・梅田のサウエックスホール（現・あいおいニッセイ同和損保サウエックスホール）に入り、チーフマネジャーとして音楽事業の企画制作に携わる。同研究科を〇三年に修了後はホール勤務と並行し、京都市立芸術大学や相愛大学の非常勤講師。一六年から沖縄県立芸術大学音楽学部教授。

上演を軸とする「国立劇場おきなわ」も開設された。国際的にも認知は進み二〇一〇年、組踊は国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化遺産保護条約に基づき「人類の無形文化遺産の代表的な「一覧表」に記載された。この際、二つの原動力となつたのが、「琉球芸能専攻」の存在だった。後継者育成の公的システムとして評価された、という。

部生も巻き込み、二つの舞台作品を形づくっていった。

その営みは正に、建学の理念に謳われた「二つの美」の体現に他ならない。単に琉球・沖縄音楽とクラシックとの、生ぬるいハーモニーに留まらない、時に摩擦もはらむ多文化共生への志向が感じ取れる内容だった。古くから多様な文化を呑み込み、独自の「チャンプルー」文化として創造してきた沖縄ならではの、「懐の深い」音楽づくりが、私たち大学の個性として今後も、浮かび上がってくることだろう。ジャンルにとらわれず、幅広い音楽文化を沖縄から世界発信できる人材を育てていきたいものだ。

音楽文化の源

庄原市民会館

庄原市芸術文化センター 事務局長 三玉 政則



庄原市民会館外観

庄原市民会館は、教育文化芸術の向上、施設設備を住民の集会所その他公共的利用に供することを目的に、大ホールを備えた市民会館として、一九七七年九月開館しました。今年九月、開館四十一周年を迎えます。

当館は、音楽、演劇、伝統芸術など多様な文化事業を展開する大ホール（九百二十六席）をメインに、多目的に使える集会室や会議室、和室などで構成され、自治振興センターも併設されています。

平成二十二年四月から指定管理制度が導入され、特定非営利活動法人 庄原市芸術文化センターが指定管理者となり、施設の管理運営を行っています。



庄原市民会館

〒727-0013
広島県庄原市西本町二丁目17番15号
TEL 0824-72-4242
FAX 0824-72-4256
<https://www.shobara-hall.com/>

年間主催公演は七件から八件で推移しています。昨年は、久しぶりに市民の要望が多い演歌公演として、演歌歌手川中美幸さんのコンサートを開催しました。庄原市の高齢化率は四二・一％で、少子高齢化が進んでおり、遠くまで公演を聴きに行くのが困難になっている方も多く、高齢の親御さんのためにチケットを買われた子どもさんもたくさんおられ、たいへん喜ばれました。また、お芝居も開催する機会が少なく、風間杜夫さんのひとり芝居も開催しました。また、本物の舞台芸術体験事業として、毎年市内の小学生を無料招待して、舞台芸術の鑑賞を行っています。広島交響楽団やミュージカル、狂言など、いろいろなジャンルの公演を実施しています。グランプリコンサート

につきましては、二〇〇一年の「バックビート」が最初で、二〇〇四年からは毎年開催しており、十四回になりました。根強いファンも多く、広島市内から毎年来る方もいらつしやいます。毎年、出演者の方と交流するのを楽しみで、食べ物に気を遣う方もいらつしやいますが、できるだけ日本の田舎文化に接してもらえよう、心掛けています。その年の日程にもよりますが、日程が合えば、市内の中学校でワークショップも開催してもらっています。二昨年は、「アイズリ・カルテット」に庄原中学校での演奏をお願いしました。地元紙にも取材していただき、好評を博しました。

業にも取り組んでいます。また、庄原市役所ロビーにおいて、毎月第四曜日の昼休み、十二時十五分から五十五分までロビーコンサートを開催しています。市民又は庄原市出身者で、音楽活動をされている方々に、活動の場を提供することを目的に、二〇二二年二月から開催しており、今年五月に百回を迎えます。シターやビオラ・ダガンバといった珍しい楽器や雅楽などの演奏もあり、毎月八十名から百二十名の市民の皆さまが来場してくださいます。七月には、百回達成を記念して、市民会館大ホールで、これまで出演していただいた方によるコンサートを予定しています。

現在、当館は開館四十二年ということで老朽化してきており、空調設備等の改修は年次的に行つてまいりましたが、客席のリニューアルも含め、大規模な改修計画が進んでおります。鑑賞に耐えられる環境整備により、市民の文化芸術拠点として、より多くの市民の皆様に来場いただけるよう、ジャンルを問わず要望のある事業を展開してまいりたいと考えています。

「グランプリ・コンサート2018クワチオール・ザイル」を終えて

日本室内楽振興財団
プロデュサー

柳 圭史

グランプリ・コンサート2018は、二昨年に開催された第九回大阪国際室内楽コンクール（管楽アンサンブル）で優勝したサクソフォン四重奏団、クワチオール・ザイルによる公演です。クワチオール・ザイルの四人は、パリ

国立高等音楽院で出会い結成されたフランス人によるアンサンブルですが、他にも優秀な学生がいたにもかかわらず、なぜこの四人になったかと尋ねてみました。答えは、「演奏技術はもろんの事ですが、一番大切なことは、全員の美的センスが同じである事です。」と返ってきました。言われてしまえばなるほど大切な事だと理解できますが、これをさらっと即答できるところがフランス人らしいと感じていました。また、なぜコンクールに出場したのかという問いには、「大阪はサクソフォン四重奏、木管五重奏、金管五重奏で競うこ



三重公演演奏風景

とが出来る。サクソフォン四重奏を更に広めたいと思つている私達には、この大阪で優勝する事がとても大切な事だった。」と答えていました。こう書いてしまうと、小難しい青年達かと思われそうですが、とてもフレンドリーで真面目な好青年達でした。

今回のツアーを振り返ってみます。毎年のことながら、全国の十会場での評価がとても高かった事はもちろんなのですが、いつものツアーではあまり見受けられない学生さん達の姿が多かった事や、三重公演でグランプリ・コンサート史上初の千人を超えるお客様にお越し頂いた事など、思い返してみると



熊本公演後のワークショップでの演奏風景

いつもに比べ各会場共、多くのお客様にお越し頂く事が出来たのではないかと思います。

また公演は十会場でしたが、大阪（高校生）のカルテット（と熊本（小中学生）のソロと高校生のカルテット）でワークショップを、葉山では小学校でミニコンサートを行った事で、いつもよりも国際交流の機会も多く、受講した学生さんや子供たちだけでなく、メンバーたちにとっても、とても良い経験が出来たと話していました。私たちの活動は、一人でも多くの方に、室内楽の素晴らしさを知ってもらうことを目的としています。関係の皆様が協力



デュオ・プロコピエ・ダフチャン

第十回コンクール&フェスタへ向け始動 大阪の覇者たちによるコンサートシリーズ！

一九九三年の創設から三年毎に開催されてきた大阪国際室内楽コンクール&フェスタは、二〇一七年で第九回まで回数を重ねた。この四半世紀にも及ぶ歴史の中で四十以上の入賞団体が輩出されており、その中には現在では世界の音楽界を牽引するアンサンブルも少なくない。そのような世界レベルの演奏を、大阪で聴くことの出来るシリーズが始まる。

節目となる第十回コンクール&フェスタのイベントとして、大阪から旅立ち、世界中で活躍する弦楽四重奏団が出演するリサイタルシリーズ「世界をリードする弦楽四重奏の響宴」が開幕する。

大阪の街には、コンクール&フェスタの熱演を、長年目の当たりにしてきた室内楽ファンも多いのではないだろうか。毎回、数多くの参加団体の中から、僅かなアンサンブルに送られる「入賞」という栄誉。その数々を記憶にとどめている方もいるだろう。今回、第十回コンクール&フェスタのイベントとして開催される「世界をリードする弦楽四重奏の響宴」は、コンクール後も世界の第一線で活躍する弦楽四重奏団の演奏を、ザ・フェニックスホールの贅沢な空間で楽しめる稀有なチャンスだ。

初回のルーマニアのアルカディア・クアルテットは、大阪だけでなくロンドンやハンブルクの室内楽コンクールでも優勝を獲得する、

若手を代表するフロントランナーのような存在だ。ヨーロッパ内で幅広くツアーを行っていて、ヤナーチェクの弦楽四重奏のCDをリリースすると、英ファイン・シヤルタイムズでは「この音楽の核心をついて、五感に襲い掛かってくる」と絶賛された。昨年にはお家芸とも言えるバルトークの弦楽四重奏全曲の録音をリリースしていて、今回の公演では名曲である第四番を披露してくれる。

クアルテット・エクセルシオは第二回コンクールで二位を受賞しており、実は日本人団体でこの順位を抜くアンサンブルはまだ現れていない。欧米から地理的に離れた日本をベースにしながら地道に活動を続け、既に二十

五年以上の活動実績を持つ。その積み重ねに裏付けされた繊細なアンサンブルは、時に鋭く切り込むようで、時に音のヴェールで優しく聴き手を包み込む。近年ではドイツの音楽祭にも招待され、地元紙で「繊細優美な金細工のよう」と評された。ペー・ト・ヴェーの録音も数多く、躍動感あふれる「ラズモフスキー第三番」を期待できる。

イギリスを代表する弦楽四重奏の一つと言つて過言では無いだろう。ヨーロッパ内での活躍だけでなく、アメリカからもコンサートの依頼が増え、まさに世界を股にかける活躍を続けている。近年はロンドン王立音楽院で後進の指導も手がけており、若手世代からの信望も集める。洞察深い時代考証の末にたどり着いた演奏方法は、イギリスの老舗音楽雑誌「ザ・ストラッド」でも六ページの特集が組まれた。公演ではハイドン、メンデルスゾーン、ペー・ト・ヴェーと、作曲家ごとのアプローチに注目したい。

「弦楽器と言えどチェコ」と思われる音楽ファンも多いだろう。実際に演奏家の間でも、東欧の弦楽器奏者の演奏を「優しくて温かみのあるサウンド」と羨む方も少なくない。そんな層の厚いチェコの音楽界であるが、ベネヴィツ・クアルテットは今年に入りクラシック・プラハ・アワードのベスト室内楽公演賞を受賞している。期待が高まらない訳がない。来日公演では、同郷の作曲家であるスメタナが最晩年に作曲した弦楽四重奏曲第二番を含むプログラムで、その充実したサウンドを味わえるだろう。

最後のアタッカ・クアルテット

コンクール参加当時の様子



1996年第2回 Q.エクセルシオ他1〜3位団体



2011年第7回 アタッカQ



2014年第8回 アルカディアQ

第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ プレイベント 世界をリードする弦楽四重奏の響宴

① 2019年5月23日(木) 19:00開演

アルカディア・クアルテット

(ルーマニア)

第8回(2014年) コンクール第1位

世界中のコンクールで優勝を重ねる、
新進気鋭のフロントランナー

F. J. ハイドン：
弦楽四重奏曲 二長調 op. 76-5 「ラルゴ」
B. バルトーク：
弦楽四重奏曲第4番 Sz. 91
L. v. ベートーヴェン：
弦楽四重奏曲第10番 変ホ長調 op. 74
「ハープ」



② 2019年7月27日(土) 15:00開演

クアルテット・エクセルシオ

(日本)

第2回(1996年) コンクール第2位

繊細な日本の美、匠の織りなす音細工

F. J. ハイドン：
弦楽四重奏曲 二長調 op. 71-2
L. v. ベートーヴェン：
弦楽四重奏曲第9番 ハ長調 op. 59-3
「ラズモフスキー第3番」
R. シューマン：
弦楽四重奏曲第1番 イ短調 op. 41-1



③ 2019年11月3日(日) 15:00開演

ドーリック・クアルテット

(イギリス)

第6回(2008年) コンクール第1位

弛まぬ研究、
考証を重ねた最先端のサウンド

F. J. ハイドン：
弦楽四重奏曲 二長調 op. 64-5 「ひばり」
F. メンデルスゾーン：
弦楽四重奏曲第6番 ヘ短調 op. 80
L. v. ベートーヴェン：
弦楽四重奏曲第13番 変ロ長調 op. 130
(大フーガ付き)



④ 2020年2月20日(木) 19:00開演

ベネヴィツ・クアルテット

(チェコ)

第5回(2005年) コンクール第1位

“弦の国”チェコから、ピロードの響きを

B. スメタナ：
弦楽四重奏曲第2番 二短調
R. シューマン：
弦楽四重奏曲第2番 ヘ長調 op. 41-2
L. v. ベートーヴェン：
弦楽四重奏曲第15番 イ短調 op. 132



© Kamil Ghais

⑤ 2020年4月11日(土) 15:00開演

アタッカ・クアルテット

(アメリカ)

第7回(2011年) コンクール第1位

クアルテット先進国から、
時代を拓くニューウェーブ

F. J. ハイドン：
弦楽四重奏曲 ハ長調 op. 20-2
キャロライン・ショウ：
Entr'Acte / Valencia
L. v. ベートーヴェン：
弦楽四重奏曲第14番 嬰ハ短調 op. 131



© Shervin Lainez

《会場》 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

《チケット料金(全席指定)》

①③④⑤ 各4,000円(フェニックスホール友の会:3,600円)
② 3,500円(同:3,150円)
学生席 各公演1,500円

主催 公益財団法人 日本室内楽振興財団
あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

《チケット取り扱い》

ザ・フェニックスホールチケットセンター

TEL: 06-6363-7999

あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F

営業時間:10:00~17:00(土・日・祝日・年末年始 休業)
※チケットぴあ、ローソンチケットでも取り扱いがあります。

後援 読売テレビ／読売新聞社
協力 コジマ・コンサートマネジメント

室内楽コンクールにとってベートーヴェンとは

音楽ジャーナリスト

渡辺 和

去る三月、第十回大阪国際室内楽コンクール＆フェスタの全容が記者団に発表された。「フェスタ」選の高岡と津での開催「過去大会優勝者の審査員への起用」「海外コンクールや音楽祭との提携」「部門での課題曲新作委嘱」等々、節目の第十回に相応しい華々しい話題が並ぶ。そんな中に、コンクール部門に挑戦しようという若者達にとって重要な告知もあった。「ベートーヴェン・イヤー」と過去の大阪大会を顕彰し、課題曲の中心にベートーヴェンを据える」という決定である。

◆レパトリーとしてのベートーヴェン

クラシック音楽の世界では、二〇二〇年は東京オリンピックでもドバイ万博でもなく、ベートーヴェンだ。一七七〇年にライン河畔はボンに宮廷楽師の息子として生まれ、帝都ウィーンで生涯を過ごした音楽家の、生誕二百五十年なのである。記念の年なら誰もが知る大作曲家がメインとなつて何の不思議があるう、とお思いかも。だが、コンクールの課題という点に絞れば、この作曲家の楽譜は便利な面もある一方、少しばかり偏りもあるのである。まず利点から。なにより



作曲家の手書き譜面のファクシミリから、研究者が判読し難い箇所を読み解いてくれた校訂版まで、あらゆる楽



ベートーヴェン自筆による楽譜

譜が簡単に手に入る。大阪コンクール専門委員は二〇二〇年の時点で最も信頼出来、入手も容易な楽譜を選択、この版を使用すべしと指定している。もうひとつは音楽的側面だ。国際コンクールでは、可能な限り様々な角度から才能を見極めねばならぬ。一点に突出した異才も必要なことは百も承知の上で、総合的にバランスの良い才能を求めるのが常だ。その際、ベートーヴェンの創作はおあつらえ向きでもある。

弦楽四重奏を例に取ろう。ベートーヴェンは生涯に十六曲の番号付き弦楽四重奏曲を遺した。そのうち作品一八として纏められた最初の六曲は、師匠ハイドンや先輩モーツァルトが開拓した古典派様式に則った、文字通りクラシックな作品だ。これらの演奏とは、フィギアスケートに喩えればかつての「規定演技」のようなもの。音

楽の構造や決まりを理解し、音としてきちんと伝えられるかが問われる。

続く三曲は《ラズモフスキー》と呼ばれ、ソナタ形式に徹底的に拘り古典様式を内部から破壊するような音楽。弦楽四重奏の《運命》や《英雄》、最もベートーヴェンらしい音楽である。形式を破ろうとするパッションをどう表現するか、コンクールにもうってつけだ。《ハープ》と《セリオーソ》と呼ばれるコンパクトな端境期の二作も、いかにもベートーヴェン流の強烈さに溢れる。

そして、最後の巨大弦楽四重奏群である。第九交響曲も《莊嚴ミサ曲》も、全てのピアノ・ソナタも書き終えた楽聖は、巨大過ぎる四曲の弦楽四重奏と、作品八に先祖帰りのアンコールのような小さな二曲を綴り、世を去る。発表当時は聴衆ばかりか演奏者にも

理解不能とされ、時代の制約も演奏能力の限界も遙かに超えた「永遠の前衛音楽」だ。多くの音楽家がベートーヴェンの弦楽四重奏を生涯の目標とするのは、これらエベレストのような譜面に挑戦し、制服したいがためである。

弦楽四重奏ほど明快ではないが、ピアノ三重奏曲も同じような位置付けが可能だ。なにしろベートーヴェンの作品二は三曲のピアノ三重奏で、壮年期の傑作《大公》はジャンルに類例のない巨大な作品なのだから。



第1回コンクール表彰式の様子

その理由は、第六回まで審査委員長と芸術監督を務めた岩淵龍太郎の個性にある。晩年は京都芸大学長として後進の指導に専念した岩淵は、弦楽四重奏をやりたくてN響コンサートマスターの職を辞するほど室内楽を、とりわけベートーヴェンを、偏愛した。プロムジカ弦楽四重奏団を率い、日本の団体として史上初めてベートーヴェン弦楽四重奏の全曲演奏も達成している。「至高の室

内楽」Ⅱ「ベートーヴェン」と信じ通したヴァイオリニストの、正にベートーヴェンの如き情熱の反映なのである。



岩淵審査委員長(第3回コンクール)

ひとつのエピソードを紹介しよう。大阪大会初開催まで半年と少しに迫った一九九二年秋、メニューインとも近い元アマデウス弦楽四重奏団メンバーが日本で弦楽四重奏セミナーを開催した。ある夕食の席に大阪大会のプロデュースが訪れ、新コンクールの概要を示し、長老にアドヴァイスを求めた。真摯に対応した老巨匠らは、プロデューサーが去るやクアル

テット弾きの顔に戻り、同席した通訳の筆者も巻き込み本音トークを始める。筆者の取材メモの隅に記された内容は以下。「課題がベートーヴェンと現

代作品で、ハイドンやモーツァルトがないのはまずい。若いクアルテットなら、現代曲はみんな上手に演奏出来るものだ。ポーツマス弦楽四重奏コンクールで、皆が一番良いと思った団体があつたが、その団体は予選のモーツァルトが良くなかったと審査員のヴァーミアQのアシケケナージが主張し、結果として一等賞は出さなかつたよ。」

最後に、第二回大阪大会で参加日本団体最高の第三位を獲得し、その後にシユトウツガルトに渡り弦楽四重奏に専念するロータスQのチェロ齋藤千尋の、素直な言葉を紹介させていた。大阪の春から十九年後、弦楽四重奏団として中堅に達したベテランの回想である。「仕事があるなしは別に、コンクールを受けようと思つていました。大阪は課題曲が大変だったのです。一次予選からベートーヴェンの初期、中期、後期、それからバルトークを一曲と三善見で、ロマン派がない。私たち

はベートーヴェン作品三〇とバルトーク第四番を弾きました。全くの弦楽四重奏の素人がそれらをやらなければならぬことになり、レパトリーの素晴らしさに惚れた。それからずつと惚れつぱな感じです。ですから、ああいう課題を出して下さった大阪のコンクールは、ロータスQにとつてとても重要なのです。」(齋藤、二〇二二)



ロータス・クアルテット(第1回コンクール)演奏風景

なお、第三回以降の大阪大会は課題曲には大きな改定が行われ、一般的な国際コンクールのそれに近付いている。そして、原点回帰の第十回がやってくる。



2018(平成30)年度 第2回理事会

開催:2019年3月8日(金) ホテルニューオータニ大阪

議事:平成31年度の事業計画並びに収支予算の審議が行われ可決承認された後、平成30年度臨時評議員会の招集と議題が可決承認され、続いて主たる事務所の移転の件について可決承認されました。最後に堤音楽理事より第10回コンクール&フェスタについての所感が述べられました。

2018(平成30)年度 臨時評議員会

開催:2019年3月25日(月) ホテルニューオータニ大阪

議事:評議員の互選で牧野明次評議員を議長に選出後、先の理事会で承認された平成31年度の事業計画並びに収支予算が可決承認されました。新任評議員4名の選出について可決承認された後、新理事1名の選出が可決承認されました。続いて主たる事務所移転について報告があり、最後に梅本音楽評議員から第10回コンクール&フェスタについての所感が述べられました。

新たに選任された評議員:

安藤 恭輔 (アサヒビール) 甲斐 啓生 (非破壊検査) 加賀田 健司 (大成建設) 西田 達矢 (積水化学)

新たに選任された理事:

山中 齊 (住友生命保険)

2019(平成31)年度 助成金交付予定事業

2019(平成31)年度の助成金交付事業を決定する選考委員会を年2月7日(木)に開催し、厳正な審議の結果、申請総数24件のうち7件が選考されました。

	事業名	申請者	開催地	開催月
1	室内楽コンサートシリーズ Vol.71～Vol.75	京都フィルハーモニー室内合奏団 理事長 小林 明	京都文化博物館 府民ホールアルティ	2019年4月 他
2	ICEP2019 訪問プログラム・報告コンサート	特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング 理事長 五嶋 みどり	大阪 ザ・フェニックスホール 東京 王子ホール	2019年6月
3	センチュリー室内楽シリーズ Vol.5&6 トップ奏者による弦楽四重奏	豊中市立文化芸術センター 館長 阪本 一郎	豊中市立文化芸術センター 小ホール	2019年7月
4	演奏家と邦人作曲家シリーズ 2019 in KANSAI	公益社団法人 日本演奏連盟 理事長 堤 剛	いずみホール	2019年7月
5	月見の里室内楽アカデミー2019	袋井市月見の里学遊館 館長 根津 幸久	静岡県袋井市 月見の里学遊館 うさぎホール	2019年8月
6	子どものためのコンサート 第12弾(仮)	神戸大アートマネジメント研究会 土田 菜津美	シーサイドホテル舞子ピラ神戸 あじさいホール	2019年8月
7	spac-e(スペース) 東京・大阪公演	spac-e 本堂 誠	杉並公会堂 小ホール ヤマハミュージック大阪なんば店	2019年8月

〔選考委員〕委員長 藤田 由之(指揮・評論)

委員 青澤 隆明(評論)

委員 小野寺 昭爾(大阪フィルハーモニー協会)

委員 沼野 雄司(桐朋学園大学・大学院 教授)

委員 横原 千史(評論)

(敬称略、委員名50音順)

公益財団法人 日本室内楽振興財団(JCMF)について

目的:室内楽の水準の向上・普及を図るために、国際的な室内楽コンクール開催とともに、室内楽演奏会の開催や各種活動に助成等を行い、もって我が国の芸術文化の発展と真の国際交流に寄与することを目的とします。

設立:1992年5月26日

主な活動:「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の開催(3年に1回)

室内楽の演奏会の開催

室内楽の演奏活動及び教育普及活動への助成

室内楽に関する調査研究

室内楽に関する広報(広報誌及びホームページ)

その他目的を達成するために必要な事業



第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ 参加団体の募集開始

2020年5月に開催される

第10回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の記者発表が行われ、4月1日からいよいよ参加団体の募集が始まりました。



3月8日開催記者発表(ホテルニューオータニ大阪)

第10回コンクール&フェスタの概要

●実施日程 2020年5月15日(金)～22日(金)

●会場 いずみホール、
高岡文化ホール・三重県文化会館
(フェスタ1次ラウンド)

●主催 公益財団法人 日本室内楽振興財団

●募集期間 2019年4月1日(月)～10月10日(木)

●コンクール部門

1.演奏部門と賞金

第1部門:弦楽四重奏

第2部門:ピアノ三重奏及びピアノ四重奏

賞金:第1、第2部門とも

第1位300万円／第2部門150万円／第3位100万円

特別賞・委嘱新曲賞(賞金20万円)の他、海外3提携協力団体が開催のコンサートへの出演

2.応募資格

国籍に関係なく、35才以下の演奏家のアンサンブル

3.審査委員

堤 剛(審査委員長、チェロ、サントリー芸術財団代表理事)

マーティン・ピーヴァー(ヴァイオリン、元東京クワルテット)

イーウェン・ジャン(ヴァイオリン、上海クワルテット)

澤 和樹(ヴァイオリン、東京藝術大学学長)

モニカ・ヘンシェル(★ヴィオラ、ヘンシェル・クワルテット)

元渕 舞(ヴィオラ、ボロメオ弦楽四重奏団)

アラスデア・テイト(★チェロ、元ベルチャ・クワルテット)

ヴァンサン・コック(ピアノ、トリオ・ヴァンダラー)

エッカルト・ハイリガーズ(★ピアノ、トリオ・ジャン・ポール)

練木繁夫(ピアノ、桐朋学園大学教授)

★は過去の優勝団体のメンバー。

4.審査ラウンド 予選(1次から3次)及び本選

※3次予選は第1部門のみ実施

●フェスタ部門

1.編成と賞金

編成:2～6人の器楽アンサンブルで楽器の組み合わせは自由

賞金:メニュースキン賞200万円／銀賞100万円／銅賞50万円

ファイナリスト賞20万円、特別賞(フォークロア賞)20万円

2.応募資格 参加者の年齢・国籍は問いません。

3.演奏曲 自由(演奏時間は、各ラウンドとも25分以内)

4.審査ラウンド 1次ラウンド(富山県高岡文化ホール、三重県文化会館)セミファイナル及びファイナル(大阪・いずみホール)

応募や開催の詳細は、
当財団のホームページ(<http://www.jcmf.or.jp>)をご覧ください

堤審査委員長あいさつ



最近、室内楽への関心が高まっているように感じています。というのも、昨年9月に行われたミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ三重奏部門で、日本の葵トリオが優勝したことが大きなニュースになりました。室内楽部門では東京クワルテットの優勝以来48年ぶりの快挙です。また、前回の第1部門で優勝したアイズリ・クワルテットが、アメリカのグラミー賞にノミネートされたことも話題になりました。

このような中で、第10回コンクール&フェスタを開催するのは大変意義のあることだと考えます。今回の審査委員は、世界のトップクラスの音楽家を招聘することが出来たと自負しております。審査委員の中には、第1回～第3回大会で優勝した団体のメンバーが入っているのも特徴の一つです。また課題曲も大変充実しております。コンクールの開催年がベートーヴェン生誕250年に当たるので、第1部門・第2部門ともに多くのベートーヴェンの作品を含めております。武満徹さんや細川俊夫さん等の日本の作曲家の作品が入っていることも意義のあることと思います。更に第1部門の3次予選に望月京さんに委嘱した弦楽四重奏曲も含まれているので、若いアンサンブルが本番でどのように解釈して演奏するのか、今から楽しみです。

今回は海外の室内楽コンクールやフェスティバルとの提携協力を得ることができ、4つの特別賞が新設されました。コンクール後の成長のための演奏機会を増やす狙いがあり、このコンクールのアピール度は更に高まったと思います。またコンクールのプレイベントとしてコンサートシリーズを行うこととなりました。当コンクールで活躍した団体が海外でも実績を上げ、再度来日して公演することは大変素晴らしいことです。

第10回大会を通して、日本の音楽文化を広く世界に発信できれば幸いです。

第10回記念大会の新たな取り組み

○過去の優勝団体のメンバーからの審査委員を招聘

今回は、第1回～第3回大会で優勝した団体から3名の審査委員を招聘します。

○課題曲として弦楽四重奏新作委嘱

第1部門3次予選の課題曲として、作曲家望月京氏に新作を委嘱しています。

○海外の室内楽コンクールやフェスティバルとの提携協力

『ニンフェンブルグ宮殿の夏』室内楽祭(ドイツ)、クワチュオール・ア・ボルドー(フランス)、ストリング・クワルテット・ビエンナーレ・アムステルダム(オランダ)との提携協力の下、参加団体のコンクール後のキャリア支援を実施します。

○フェスタ1次ラウンドの大阪以外の都市での実施

富山県高岡市と三重県津市でフェスタ1次ラウンドを開催し、フェスタの魅力を大阪以外の都市で展開します。

○過去の優勝団体によるコンサートシリーズの開催

コンクールのプレイベントとして、過去に優勝/準優勝した弦楽四重奏団5団体によるコンサートシリーズを開催します。



大きく息を吸い込んで 生命力溢れる自然の美しさを満喫しよう。

清々しい青空、涼やかな春風、生命力溢れる草花たち。
魅力ある大自然の営みを感じられる季節が今、おとずれています。

「おだやかな気候に誘われて、お出かけしてみませんか？」

私たちJTBは、世界各地にある夢広がる旅のお手伝いに
日々取り組んでいます。

JTB 大阪第二事業部

〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 (MPR本町ビル7階)
TEL.06(6252)2711(代) FAX.06(6252)2790
担当：有野 良一

公益財団法人 日本室内楽振興財団 支援企業

大阪ガス株式会社
関西電力株式会社

住友電気工業株式会社
ソニー株式会社
株式会社東芝
日本電気株式会社
パナソニック株式会社
株式会社日立製作所
富士通株式会社
ローム株式会社

株式会社近畿大阪銀行
株式会社みずほ銀行
株式会社三井住友銀行
三井住友信託銀行株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社りそな銀行

住友生命保険相互会社
東京海上日動火災保険株式会社
日本生命保険相互会社
三井生命保険株式会社

野村證券株式会社

アサヒビール株式会社
サントリーホールディングス株式会社
ハウス食品グループ本社株式会社

東洋紡株式会社
株式会社ワコール

伊藤忠商事株式会社
岩谷産業株式会社
株式会社千趣会
三菱商事株式会社

川崎重工業株式会社
株式会社クボタ
新日鐵住金株式会社
ダイキン工業株式会社
日立造船株式会社
三菱重工業株式会社

株式会社日建設計

株式会社大林組
鹿島建設株式会社
株式会社きんでん
株式会社鴻池組
清水建設株式会社
大成建設株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社竹中工務店

非破壊検査株式会社

大塚製薬株式会社
住友化学株式会社
積水化学工業株式会社
武田薬品工業株式会社
日本ペイント株式会社

近畿日本鉄道株式会社
京阪電気鉄道株式会社
南海電気鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
阪急電鉄株式会社
阪神電気鉄道株式会社

株式会社JTB
株式会社電通
株式会社ニュー・オータニ

KDDI株式会社
西日本電信電話株式会社

株式会社読売新聞大阪本社
株式会社読売新聞東京本社
日本テレビ放送網株式会社
讀賣テレビ放送株式会社

(関連業種別50音順)

C O N T E N T S

アーティスト スペシャル対談

磯村和英(ヴィオラ) × 葵トリオ(ピアノ三重奏)1

音楽の学び舎 沖縄県立芸術大学

2つの古典―「琉球文化」と「クラシック」―と共に
谷本裕7

音楽文化の源

庄原市民会館

三玉政則9

「グランプリ・コンサート2018 クワチュオール・ザイール」を終えて
柳圭史10

第10回コンクール&フェスタへ向け始動

大阪の覇者たちによるコンサートシリーズ!
河井拓11

室内楽コンクールにとってベートーヴェンとは

渡辺和13

第10回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ

参加団体の募集開始15

第10回コンクール&フェスタの概要
堤審査委員長あいさつ

JCMF NEWS16

日本室内楽振興財団支援企業17

あ
と
が
き
ジュリアード音楽院の学生で結成された東京クワルテットが、
ミュンヘン・コンクールで日本の団体として初めて1位となった
のは1970年。対談頂いた磯村氏は、結成メンバーとして44年
間にわたって世界の第一線で活動された。一方の葵トリオは結
成2年。同じミュンヘン1位となったばかりの3人に、氏は自身が
歩んで来た道程を確かめるように語られた。大海原に船出する
若い才能たちに向けた暖かく、惜しみないエールだった。

奏

●編集・発行／公益財団法人 日本室内楽振興財団

〒540-8510 大阪市中央区城見2丁目2番33号 読売テレビ内
TEL.(06)6947-2183 FAX.(06)6947-2198

URL <http://www.jcmf.or.jp>

Cover Design : Mié

Interview Photo : Nobuhiro Tamakoshi

VOL.51 令和1年5月16日



公益財団法人 日本室内楽振興財団